

16

第16期 事業報告書

2018年4月1日▶2019年3月31日

INVESTOR RELATIONS

DELICA REPORT

[デリカレポート]



デリカフーズホールディングス株式会社

DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証1部 証券コード 3392

DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

Top Message

代表取締役社長

大崎 善保



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。当期も売上が順調に推移し、ここに事業報告をすることができました。これもひとえに、株主の皆様のご理解、ご支援の賜物と、重ねて心より御礼を申し上げます。

青果物流通業界におきましては、上半期は、猛暑、豪雨等の天候不順、台風上陸、地震等の影響による野菜の調達価格の高騰や、廃棄ロスの発生により業績に多大な影響を受けました。しかし、下半期は天候に恵まれ、青果物の調達価格や品質が安定したことに加え、外食産業を中心としたお客様に価格修正のご協力を頂いたことで、業績を回復基調に戻すことができました。

このような中で当社グループは、「物流

の強化とグループインフラの構築」、「新設事業拠点の安定稼働と更なる拠点拡大」等の経営施策を進めてまいりました。まず「物流の強化とグループインフラの構築」といたしましては、関東・中京・関西を結んだ独自の幹線便を整備し、主要事業所間の在庫相互融通による過剰在庫の抑制や廃棄ロスを減らしたことで調達コストの削減につながりました。

「新設事業拠点の安定稼働と更なる拠点拡大」につきましては、大型貯蔵機能を備えた施設として2018年5月に中京FSセンター、12月には埼玉FSセンターを新規開設いたしました。中京FSセンターは西日本地区の、埼玉FSセンターは東日本地区の新たなグループインフラの拠点として機能しております。

このような施策の結果、当連結会計年度における売上高は、39,448百万円(前期比5.9%増)となりました。利益面につきましては、新センターの立ち上げ費用の発生及び減価償却費の増加、物流事業拡大のための人員・車両確保費用の増加等により営業利益685百万円(前期比1.2%減)、経常利益761百万円(前期比0.2%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は459百万円(前期比3.4%減)となりました。

今後もグループ一丸となった営業活動を行うことで、さらなる企業価値向上と業績回復に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

業績の概況

売上高は9期連続過去最高を計上。利益は計画的投資、天候不順等の影響により前期比減となりました。

当連結会計年度の業績

売上高	39,448百万円 (前期比5.9%増)
営業利益	685百万円 (前期比1.2%減)
経常利益	761百万円 (前期比0.2%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	459百万円 (前期比3.4%減)
1株当たり当期純利益	62.35円
総資産利益率 (ROA)	2.35%
株主資本利益率 (ROE)	6.09%

取締役のご紹介

取締役 (未来開発最高役員)



いぬ ますみ
丹羽 真清

デザイナーフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任

取締役



こばやし けんじ
小林 憲司

デリカフーズ株式会社
取締役社長 兼任

社外取締役



おざき ひろゆき
尾崎 弘之

おぎの 株式会社
代表取締役社長

社外取締役



しばた みすず
柴田 美鈴

株式会社
代表取締役社長

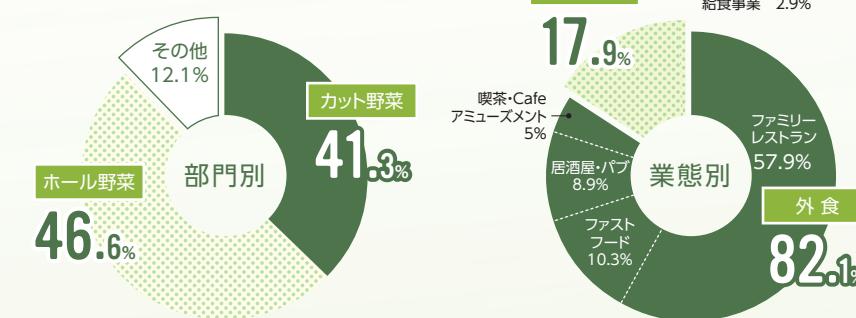
取締役会長



たちもと いさたけ
館本 勲武

株式会社
代表取締役社長

販売構成比



加工していない野菜そのものをホール野菜、お客様のご要望に合わせて加工されたものをカット野菜といいます。また、第三の基軸商品として展開している真空加熱野菜もカット野菜に分類されます。

8割以上が外食業界に向けた売上となっております。その中でも、ファミリーレストラン向けの売上が半数以上を占めています。

※ファミリーレストランには、イタリア料理、中華料理、和食等の業態も含まれております。

現代社会の課題の1つである人手不足や自然災害に対応するため、独自で開発したシステムと連携した貯蔵機能を持つ新センターが埼玉県八潮市で稼働を開始しました。ここでは、最新の設備を取り入れたデリカフーズ株式会社埼玉FSセンターについてご紹介いたします。



施設概要
 住 所 埼玉県八潮市
 床 面 積 1,150坪 4階建
 オープン 2018年12月
 売上高規模 約30億円

センターに青果物が入荷してからお客様のもとに商品として届くまで、すべての作業が4℃以下で行われる「スーパーコールドチェーン」という仕組みを導入しています。これにより、青果物の鮮度を長く保つことができ、廃棄ロスの削減を実現します。

スーパーコールドチェーン

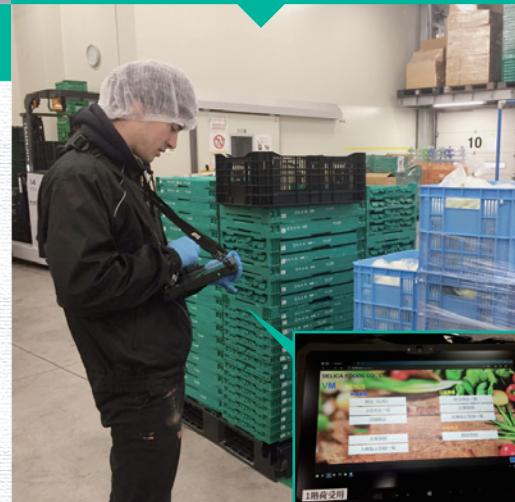


大型貯蔵冷蔵庫を装備

青果物を貯蔵するのに最適な温度は、それぞれ違います。そのため、-25℃、1℃、4℃、15℃と4つの温度帯の大型貯蔵冷蔵庫(天井高7メートル、350パレット収容可能)を導入しました。これにより、新鮮な状態を長く保つことができ、天災や不作が起きたときも安定して供給を行えます。

デリカフーズが独自で開発した在庫管理システム(VMS/ベジタブルマネジメントシステム)を導入しました。数量、規格、重量、産地、品質、保管場所などの情報で分類した在庫状況をリアルタイムで確認し、適正な在庫数を保つことを可能にします。

在庫管理システム開発・導入



voice

作業効率化を進め、働きやすさNO.1のセンターへ

埼玉FSセンターはグループ内で初めてVMS※という独自の在庫管理システムを取り入れました。これにより仕分け作業や在庫管理を自動化・可視化できるようになり、作業の効率化が実現しました。施設が作られた目的の1つに、生産性向上による働き方改革があります。VMSの稼働率を向上させ省人化・システム化を進めることで、働きやすさNo.1のセンターを目指します。また、グループ最大級となる350パレット収容の温度別貯蔵機能を活かして、お客様に新鮮な野菜を安定的にお届けします。

※ベジタブル マネジメント システム (Vegetable Management System, VMS) とは、商品の発注から出庫までを一元管理できるデリカフーズ独自のシステム。

デリカフーズ株式会社
 埼玉FSセンター センター長
 堀之内 景

voice

より良い環境づくりのため、最先端システムを活用

VMSは、当社が今まで培ってきた経験と野菜の扱い方、管理方法をどうにかシステム化できないかという想いから開発を開始しました。野菜は鮮度が大切ですが、鮮度を維持するためには適切な温度で保管しなければなりません。VMSは適正な発注と正確な検品を実現し、野菜ごとに適した保管場所に格納指示を出すことができます。また、在庫をリアルタイムに可視化することによってグループ全体の貯蔵倉庫としての役割も果たします。今後はさらにVMSを活用した環境づくりを推進します。

デリカフーズホールディングス株式会社
 経営システム統括室 室長
 高橋 欣也

Point
01

商品安定供給のための インフラ整備

FSセンターと自社物流により
350ルート以上の配送網を実現!

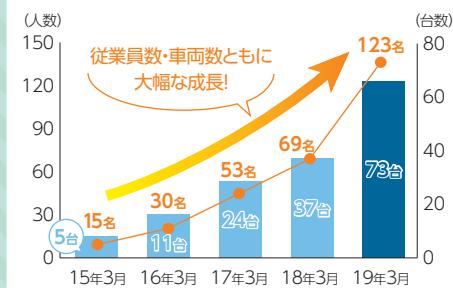


商品の品質と安全を守り、スムーズに出荷するために、グループ会社であるエフエスロジスティクス(株)と連携して、物流インフラを構築しています。現在は主要地域の関東・中京・関西に貯蔵センターを開設し、各センターを幹線便でつないで在庫を調整しています。将来的には、全国各地の産地から各センターへの引き取り便をつなぎ、在庫の一括管理を目指します。商品は幹線便と350以上の自社ルートを組み合わせて、全国約20,000店舗に配送する仕組みを計画しています。産地からお客様への配送を自社グループ内で行うことで、安定供給を図ります。

エフエスロジスティクス(株)の事業展開

エフエスロジスティクス(株)は、デリカフーズグループの物流を担う会社として2014年に設立されました。設立時から車両台数、従業員数は増え続けており、2018年3月期にはそれぞれ37台で69人、2019年3月期には73台で123人と1年間で約2倍になりました。規模が拡大したことにより、グループの物流内製化率は関東が約40%、関西が約25%にまで到達しました。また、東京と大阪では野菜と一緒にお客様の資材を運ぶ「資材お助け便」、産地からレタス等を運ぶ「産地引き取り便」を開始しました。今後も内製化率を上昇させ、商品の安定供給に貢献できるような取り組みを行ってまいります。

車両数・従業員数の推移



Point
02

異常気象などによる 不作への対策

2018年も続く、天災・気象異変

昨年の7月3日から8日にかけて、西日本や東海地方で記録的な豪雨となり、広島や愛媛の一部では観測史上最大の降水量を記録し、全国的にも大きな被害を与えました。また、同時期に歴史的にも類を見ない猛暑となり、埼玉県熊谷では41.1℃という歴代1位の記録を更新しました。さらに、台風も多発し、中でも9月に近畿地方に上陸した台風24号は全国各地に塩害をもたらしました。これらの天災は青果物の収穫量にも影響します。



大型貯蔵庫と海外産地の開拓で
天災リスクを回避!



埼玉FSセンターの大型貯蔵冷蔵庫

デリカフーズグループが取り扱う青果物は、天候や自然災害によって、収穫量が減少し、価格の高騰や品質の低下による作業効率、歩留り(取れ高)が悪化する等大きな影響を受けます。特に近年、記録的な猛暑や相次ぐ大型台風の上陸等により、青果物の収穫量が不安定になっているのが課題です。その対策として、埼玉FSセンターでは異常気象が起きた場合でも商品を安定供給するために、4種類の温度帯別貯蔵庫を設置しました。様々な青果物に合わせた温度で保管できるため、従来に比べて鮮度を長く保つことが可能となります。例えば、台風が発生した時点で、まだ価格が高騰していない青果物を購入し長期保存したり、大型の貯蔵庫を活用して海外から調達した青果物の保管をするなど、コスト削減や安定供給に効果を発揮します。今後もこの貯蔵機能を活かし、不作や自然災害に備えます。



New OPEN
of
埼玉FSセンター
2018.12

Point
03

システム化や技術開発で 効率・省人化センター

今働いている社員が
より働きやすくなるために



1



2



3



4



5

埼玉FSセンターでは、働き方改革を進めるため、多くのシステムを使い効率化と省人化を図っています。

これまでは商品を仕分ける際、担当者が商品の保管場所を探し、必要数を集めていたため、時間と手間がかかっていました。そこで、VMS※を活用し、保管場所がひと目で分かるようにすることで、作業時間を大幅に短縮しました。また、先に入荷した商品から順に出荷する「先入れ・先出し」を行うために、これまではフォークリフトを使って商品の保管場所を入れ替えていましたが、埼玉FSセンターでは500コンテナを貯蔵できる立体自動倉庫を導入し、VMSと連携させることで、自動で「先入れ・先出し」ができるようになりました。その他にも、高い経験値が必要なトマトの検品作業を自動化するため、AIを搭載したロボットアームも開発しております。これからもより一層システム化・自動化を進め、生産性向上を図ってまいります。

※ベジタブルマネジメントシステム (Vegetable Management System, VMS) とは、商品の発注から出庫までを一元管理できるデリカフーズ独自のシステム。

✓ システム化への取り組み

- 1 立体自動倉庫とVMSとの連動により保管場所・数量・重量・規格・品質・産地・入荷日を一括管理
- 2 垂直回転ラックで省スペースを実現
- 3 AI&ロボットアームによるトマトの自動選別装置開発中
- 4 フードテロ対策として全出入口に静脈認証の導入や全エリア全方位に防犯カメラを設置
- 5 非破壊でレモンの中腐れを選果できる装置の開発

グループ最前線

(株)メディカル青果物研究所

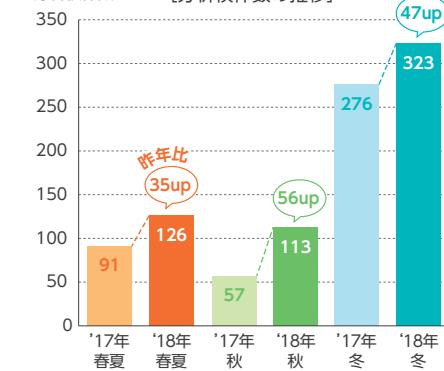
デリカフーズグループで食品の分析事業を担うのが、(株)メディカル青果物研究所です。青果物の新たな価値基準を創造する機関として、2017年6月に再稼働しました。全国各生産者・団体から検体を受け、抗酸化力(植物ストレス耐性力)、ビタミンやミネラル等の栄養素、その他機能性成分等を分析しています。分析結果数値により青果物に付加価値を付ける事で、農業の発展に貢献しています。

青果物に新たな価値を生み出す

15年間で約2万5千検体のビックデータを蓄積!



分析検体数 [分析検体数の推移]



これまで青果物の良し悪しの判断基準は、見た目が大きな比重を占めていました。しかし、当社ではおいしさ、抗酸化力、栄養素、安全性など、機能や品質の部分も判断基準であるべきとの考えで青果、食品全般の受託分析を行っています。また、あくまで青果物の品質は総合的なものであるとの考えから、`栽培、`中身栄養素、`流通、の4つの軸での青果物の総合品質評価指標「デリカスコア」を設けています。消費者は、この指標により品質が見える化された野菜を選択することができます。分析受託検体数も着々と増えており、2017年は年間424件でしたが、翌年には562件にまで増加しました。

今後の展開

世の中の動き、に対応した取り組みを推進

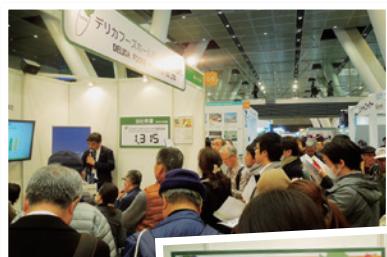


食の安全・安心への関心の高まりに対応するため、産地監査の体制を構築すると共に、異常気象対策として収量予測システムの構築を図ります。また、レモン非破壊選別装置開発の継続と規模を拡大し、レモン以外の品目でも選別可能にすることで、デリカフーズグループで取り扱う青果物の品質統一を目指してまいります。さらに、分析の効率化・省人化も進め、受託分析数を増加させます。ますます活躍の場を広げるメディカル青果物研究所の未来に、どうぞご期待ください。

EVENT | デリカフーズホールディングス(株)

大規模な個人投資家向けイベントに出展し
当社の取り組みをアピール

2019年2月22・23日に東京国際フォーラムにて行われた、「東証IRフェスタ2019」に出展いたしました。22日には代表取締役社長の大崎がご来場のお客様に、デリカフーズグループの概要や取り組みについて紹介いたしました。また、ブース内で開催したミニセミナーにも多くの方にお立ち寄りいただき、当社の魅力についてお伝えする良い機会となりました。



EVENT | (株)メディカル青果物研究所

野菜の栄養診断コンテストで使用される
青果物の分析データを提供

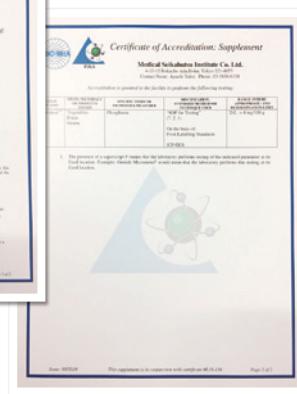
一般社団法人日本有機農業普及協会主催の「オーガニック・エコフェスタ2019」が2月23日に行われ、(株)メディカル青果物研究所が検査機関として参加いたしました。フェスタ内では野菜の栄養診断コンテストが実施され、コンテストに出品された全ての青果物の分析を担当いたしました。また、結果発表の際にはコメントーターとして講評も行いました。



SYSTEM | (株)メディカル青果物研究所

国際的に認められた分析機関の
証明であるISO17025を取得

(株)メディカル青果物研究所は、デリカフーズグループ内で初となるISO/IEC17025:2017を取得いたしました。この認定を受けると、「信頼性のある試験・校正結果を生み出す能力がある」と国際的に認められます。お客様に信頼できる分析結果を提供できるよう、今後も努力を重ねてまいります。



MEDIA | デザイナーフーズ(株)

青果物の分析結果を専門書籍に寄稿

デザイナーフーズ(株)は、19年にわたり青果物の成分分析に取り組み、データベース化を行っています。分析項目はビタミンCや抗酸化力、Brix糖度など様々です。これまで蓄積してきたデータを解析し、その成果を、化学同人社発刊の『抗酸化物質の科学』に寄稿いたしました。今後も、青果物の価値基準の確立に貢献してまいります。





連結貸借対照表 (要旨)

単位:千円

資産の部	第15期	第16期
	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
流動資産		
現金及び預金	4,266,759	3,195,540
売掛金	4,724,258	4,798,529
商品及び製品	146,548	140,729
仕掛品	14,510	12,583
原材料及び貯蔵品	72,016	50,054
その他	141,892	114,695
貸倒引当金	△2,882	△1,819
流動資産合計	9,363,103	8,310,312
固定資産①		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,417,643	5,005,298
土地	3,249,504	3,475,957
その他(純額)	1,880,430	1,698,641
有形固定資産合計	8,547,578	10,179,897
無形固定資産		
その他	51,069	77,861
無形固定資産合計	51,069	77,861
投資その他の資産		
投資有価証券	616,739	548,588
繰延税金資産	33,941	77,099
その他	639,165	618,141
貸倒引当金	△6,174	△4,695
投資その他の資産合計	1,283,672	1,239,134
固定資産合計	9,882,321	11,496,893
資産合計	19,245,424	19,807,206

	第15期	第16期
1株当たり当期純利益(円)	64.62	62.35
1株当たり純資産額(円)	1,022.82	1,064.28
自己資本(千円)	7,539,770	7,847,441
自己資本比率(%)	39.2	39.6

※「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

単位:千円

負債の部	第15期	第16期
	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
流動負債		
買掛金	2,161,816	2,112,651
短期借入金	260,000	260,000
1年内返済予定の長期借入金	1,009,040	992,092
未払法人税等	250,015	107,260
未払金	1,414,619	1,315,010
その他	313,412	359,398
流動負債合計	5,408,904	5,146,414
固定負債②		
長期借入金	5,730,303	6,118,210
その他	566,446	695,140
固定負債合計	6,296,749	6,813,350
負債合計	11,705,654	11,959,764
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,377,113	1,377,113
資本剰余金	2,162,233	2,164,228
利益剰余金	3,863,397	4,205,155
自己株式	△29,358	△28,494
株主資本合計	7,373,385	7,718,003
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	165,221	136,245
退職給付に係る調整累計額	1,162	△6,806
その他の包括利益累計額合計	166,384	129,438
純資産合計	7,539,770	7,847,441
負債純資産合計	19,245,424	19,807,206

① 固定資産

固定資産は、前連結会計年度末に比べ16.3%増加しました。これは主として、中京FSセンター・埼玉FSセンター新設により、建物及び構築物が1,587百万円、土地が226百万円増加した一方、建設仮勘定が308百万円減少したことなどによりです。



連結損益計算書 (要旨)

単位:千円

	第15期	第16期
	前連結会計年度 (自2017年4月1日 至2018年3月31日)	当連結会計年度 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)
売上高	37,252,272	39,448,215
売上原価	28,620,823	30,230,341
売上総利益	8,631,449	9,217,873
販売費及び一般管理費	7,937,089	8,532,108
営業利益	694,359	685,765
営業外収益	101,321	107,839
営業外費用	32,920	32,446
経常利益	762,761	761,158
特別利益	59,249	2,922
特別損失③	60,287	68,257
税金等調整前当期純利益	761,723	695,824
法人税等合計	285,849	236,120
親会社株主に帰属する当期純利益	475,873	459,703



連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自2018年4月1日 至2019年3月31日)

単位:千円

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に 係る調整累計額	その他の包括 利益累計額合計	
当期首残高	1,377,113	2,162,233	3,863,397	△29,358	7,373,385	165,221	1,162	166,384	7,539,770
当期変動額									
剰余金の配当			△117,945		△117,945				△117,945
親会社株主に帰属する 当期純利益			459,703		459,703				459,703
自己株式の取得				△1	△1				△1
自己株式の処分		1,995		865	2,861				2,861
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△28,976	△7,969	△36,946	△36,946
当期変動額合計	—	1,995	341,757	864	344,617	△28,976	△7,969	△36,946	307,671
当期末残高	1,377,113	2,164,228	4,205,155	△28,494	7,718,003	136,245	△6,806	129,438	7,847,441

② 固定負債

固定負債は、前連結会計年度末に比べ8.2%増加しました。これは、主として、長期借入金が387百万円、資産除去債務が132百万円増加したことなどによりです。

③ 特別損失

当連結会計年度における特別損失の主な内訳は、投資有価証券評価損が29百万円、固定資産除却損が20百万円、不動産取得税等が16百万円などとなっております。

青果物の新たな価値を創造し、
「野菜の生産者」と「食の提供者」をつなぐ**青果物専門商社**



デリカフーズ(株)

仕入れた野菜を加工し、鮮度を保ったまま全国約2万店舗にお届けしています。高いカット技術・パッケージ技術を有する加工工場は、食品安全にも細心の注意を払っています。



加工

デリカフーズグループ

物流

(株)メディカル青果物研究所

デザイナーフーズ(株)

野菜の中身分析や機能性研究を実施しています。研究結果を活かして、メニュー提案やコンサルティング業務も行いながら、野菜の新たな価値創造に取り組んでいます。



エフエスロジスティクス(株)

スーパーコールドチェーンを実現するために、全国に広がるチルド配送網を活かして毎日新鮮な野菜をお届けしています。

食の提供者

ファミリーレストラン・居酒屋・ファストフードなどの「外食」、コンビニエンス・惣菜・お弁当などの「中食」が主なお客様です。素材や産地、野菜を主役としたメニューなど様々な提案を行っています。

契約産地など各地で生産される新鮮で高品質な野菜を安定的に仕入れます。契約産地は年々広がっており、研究機関や行政との共同開発で野菜の中身評価や土壌改良などにも取り組んでいます。

産地レポート vol.12

デリカフーズに野菜を納入していただいている生産者のみなさんをご紹介します。
株式会社ポタジェガーデン [埼玉県]

埼玉県久喜市菖蒲町



デリカフーズと取引を始めたのは、およそ20年前。全国展開しているレストランチェーンのサラダ用に納品しています。従業員の自宅付近のお店で自分たちが栽培したハーブが使用されており、やりがいに繋がっています。

ハーブ本来の風味を広めるため、こだわり抜いた末にたどり着いた土耕栽培。

株式会社ポタジェガーデンがあるのは、埼玉県久喜市菖蒲町。関東ロー層が特徴的なこの地で、フレッシュハーブや苗を扱っています。都心からのアクセスが良く、新鮮なうちに商品をお届けできることが自慢です。「もっと多くの人に、おいしく健康になれる野菜であるハーブの素晴らしさを伝え、使ってもらいたい」という想いで1987年に創業しました。もともとはハーブの加工品の会社でしたが、あらゆるお客様からの注文に対応するために自社農場を立ち上げました。

最も風味が強いと感じたからです。本来の味や香りを引き出すため、肥料の使用量を抑えつつ土の上で育てることを大切にしています。また、ハーブはマイナーではあるものの、食卓には欠かせない存在です。以前、高温期や厳寒期に供給不足になった際には、お客様にご迷惑をおかけしてしまいました。その反省から、現在は安定供給できる体制を整えています。

こだわりは、創業当初からの土耕栽培です。さまざまな方法で育てられたハーブを食べ比べた結果、土で育ったハーブは

手塩にかけて育てたハーブが収穫され、肉や魚、野菜の味を引き立てている姿を見ると、大きなやりがいを感ずります。目指しているのは、ハーブで日本一の会社です。これからも関わる人全てを豊かにすることを目標に、努力を続けていきます。

会社概要

2019年3月31日現在

商号	デリカフーズホールディングス株式会社		
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.		
設立	平成 15 年 4 月 1 日		
創業	昭和 54 年 10 月 6 日		
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目 12 番 12 号		
資本金	1,377,113 千円		
従業員数 (連結)	492 名 (他、平均臨時雇用者数 1,700 名)		

役員

代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
取締役(未来開発最高役員)	丹羽 真清	社外取締役	柴田 美鈴
取締役	小林 憲司	常勤監査役	野村 五郎
取締役会長	館本 勲武	社外監査役	森田 雅也
		社外監査役	三島 宏太

会計監査人 仰星監査法人

株式状況

2019年3月31日現在

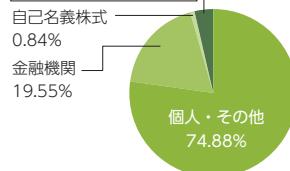
発行済株式総数 7,436,000 株
株主総数 11,428 名

大株主

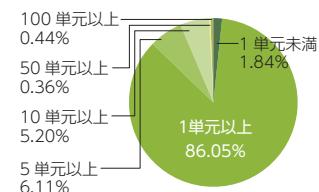
館本 勲武	1,025,500 株
館本 篤志	1,019,200 株
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	640,300 株
日本マスタートラスト 信託銀行(株)(信託口)	447,000 株
大崎 善保	130,900 株
丹羽 真清	102,300 株
野村 五郎	99,400 株
岡本 高宏	90,000 株
株式会社 クローパフォー	84,000 株
デリカフーズグループ 従業員持株会	80,400 株

[株主分布状況]

金融商品取引業者 0.92%
その他国内法人 2.14%
外国法人等 1.67%



[所有株式数別分布状況]



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 TEL.0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 株式会社東京証券取引所 (証券コード 3392) 電子公告により行う
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 (証券コード 3392)
公告の方法	電子公告により行う

公告掲載 URL <https://www.delica.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



デリカフーズホールディングス株式会社

DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



デリカフーズ <https://www.delica.co.jp/>

【お問い合わせ】 TEL 03(3858)1037 FAX 03(5851)1056



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、大豆油などをリサイクルして作られたベジタブルインクを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。